

# 住友の歴史

〔全2冊〕

朝尾直弘監修／住友史料館編

〔上巻〕 四六判・三〇〇頁

定価 一、七八五円（税5%込）

ISBN978-4-7842-1703-8

〔二〇一三年八月刊行〕

〔下巻〕 予価 一、七八五円（税5%込）

〔二〇一四年夏刊行予定〕

近世初頭から銅の精錬を業とし、その後金融・貿易などをも手がけ、近代の財閥につながる豪商の典型である住友の歴史をわかりやすく紹介。  
 連続と受け継がれる住友精神の源泉がここにあり。

住友が完成させた  
 （鼓銅図録・南蛮吹  
 住友史料館蔵）



上巻◆目次  
はじめに

第1章 創業者の肖像

第2章 東アジアの銅貿易と住友

東アジアと銅／住友の銅貿易と銅鋳業の始まり／江戸時代の銅山と産銅高の推移／住友の銅山経営の始まり／《コラム》切上り長兵衛

第3章 火と水と土石とのたたかい

別子銅山の開発と発展／銅山永続に向けた戦略／苦難に満ちた銅山経営／災害への対応／犠牲者の慰霊と諸相／《コラム》蘭塔場

第4章 鉱山都市と積出港市

描かれた鉱山／山中の都市／鉱山の環境と生活／物資の供給と後背地／積出港市新居浜の展開／《コラム》山銀札―別子銅山の貨幣流通―

第5章 銅貿易を支える仕組み

長崎貿易と銅統制のあらまし／銅統制仕法の変遷／銅吹屋仲間とその役割／輸出銅製造を支えた技術／住友の銅吹所と「鼓銅図録」／《コラム》住友銅吹所跡の発掘調査

第6章 銅の生産と関連諸産業

銅の産業連関をさぐる／銅生産を支えた人々と経済の仕組み／銅精錬と産銅経費／銅の加工とその用途／古銅の流通／《コラム》船と銅材

第7章 住友の江戸進出

銅商いと吹所の経営／「浅草米店心得方」にみる住友の事業精神／都市社会の一端としての住友／中橋店の両替業進出と挫折／《コラム》娯楽としての開帳と浅草米店

参考文献／住友家系図  
 写真・図・表一覧／索引

下巻◆予定目次〔二〇一四年夏刊行予定〕

第8章 イエの構成と組織

第9章 大名との交際

第10章 都市大坂が育んだ住友

第11章 文化と公共への貢献

第12章 幕末・明治の変革

第13章 近代化への対応

第14章 世界市場への参入  
 おわりに

近世別子銅山の採掘現場  
 （別子銅山絵巻・住友史料館蔵）



思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723  
 http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	住友の歴史 上巻	本体1,700円(税別)	ISBN978-4-7842-1703-8	
	冊	下巻	予価1,700円(税別)		
お名前			tel	 上巻HPのQRコード	
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい)				
	<input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
			書店番線印		

## ※住友史料叢書

小葉田淳／朝尾直弘監修／住友史料館編

1620年代から大坂で銅の精錬を業とし、一時世界銅産市場においても重要な位置を占めた住友家は、その後金融・貿易などをも手がけ、近代の財閥につながる豪商の典型である。その鉱業史料は、質・量ともにわが国屈指の基本史料であり、本叢書は1万数千点にのぼる近世史料のうち重要で継続する記録類を中心に編纂。

▶A5判・平均400頁／既刊27冊 揃定価261,975円

## ※日本銅鉱業史の研究

小葉田淳著

金銀山の個別の史的調査を集成した、『日本鉱山史の研究』(学士院賞)、『続日本鉱山史の研究』につづく本書には、足尾・面谷・別子など日本を代表する鉱山の個別の史的調査研究に加え、付篇として産銅に関する近世の銅貿易と鑄銭についての論稿を取めた。

▶A5判・868頁／定価19,950円 ISBN4-7842-0760-0

## 日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づけ、日本の産業技術史を俯瞰する。大項目には3ないし4頁の総説をおき、日本産業技術の流れを把握することができる「読む事典」。個別項目に関する知識を分野全体の展望との関連において示す。

▶B5判・550頁／定価12,600円 ISBN978-4-7842-1345-0

## 伝統産業の成立と発展 播州三木金物の事例

桑田優著

兵庫県三木市の伝統産業、三木金物は近世後期に勃興し、現在にいたっている。本書は、流通機構の発達など社会的な背景にも着目し、三木金物が特産品として全国市場へ進出してゆく過程を跡付ける通史。

▶A5判・302頁／定価6,825円 ISBN978-4-7842-1523-2

## ※近世後期瀬戸内塩業史の研究

山下恭著

塩業と醤油業における開発・経営・塩専売制・流通問題を細かく分析し、さらに塩業における燃料問題と労働条件を徹底的に解明した基礎的研究の一書。【内容】近世後期の塩業の燃料問題と塩業労働—石炭導入と給銀分析—／近世後期の塩業の燃料問題と塩業労働—石炭導入と給銀分析—

▶A5判・300頁／定価6,300円 ISBN4-7842-1287-6

## 近世琵琶湖水運の研究

杉江進著

近世における堅田の変貌、後背地との結びつきにより分けられる三地域(「諸浦の親郷」(堅田・大津・八幡)・湖北四方浦・彦根三漆)の対抗関係、船の航行と船支配の関係という三つの視点を軸に、近世前期琵琶湖水運の構造と特質、廻船規定、諸浦の盛衰を論究する。

▶A5判・464頁／定価9,450円 ISBN978-4-7842-1551-5

## 飛脚問屋井野口屋記録 [全4巻]

渡邊忠司・徳永光俊共編

尾張領内と京都・大坂・江戸を中心に各地域を結ぶ尾張飛脚の飛脚問屋であった井野口屋の記録。原題は「井野口屋飛脚問屋記録(堅帳和綴、全33冊)で享保8年(1723)から天保14年(1843)までの記録を収め、近世の飛脚史・郵便制度の資料的空白を埋める貴重な史料。

▶A5判・平均450頁／揃定価42,630円  
ISBN4-7842-1078-4 ②-1108-X ③-1147-0 ④-1186-1

## 経済史再考

徳永光俊・本多三郎編

大阪経済大学日本経済史研究所開所70周年記念論文集。経済史研究の方法論5篇、日本国内外の経済史・経営史を実証的に分析した論文24篇を収録。【内容】経済史を考え直す／黒正史学再考／天野元之助と中国古農書研究／堺と長崎／近世地方金融資本「石州銀」と九州 他

▶A5判・620頁／定価12,600円 ISBN4-7842-1153-5

## ※貨幣と鉱山

小葉田淳著

日本経済史研究の泰斗が中世から近世にいたる貨幣と鉱山に関する論考を集成。【内容】近世、銀・金の海外流出と銅貿易の動向／日本中近世の貨幣事情／領国武田氏の幣制と家康の幣制の確立／佐渡鑄造の金銀貨、とくに印銀通用について／近世鉱山史料について／近世鉱山経営と藩の統制／近世、日向椎葉山の銅山について 他

▶A5判・300頁／定価8,190円 ISBN4-7842-1004-0

## 近世鉱山社会史の研究

荻慎一郎著

鉱山社会史研究の視点から、従来の研究で欠落していた支配・経営構造、技術受容と生産体制、労働組織、鉱山法や住民の社会生活などの実態を大葛金山・院内銀山などの一次史料を通して明かす先駆的な業績。第7回高知出版学術賞受賞。

▶A5判・640頁／定価13,440円 ISBN4-7842-0900-X

## 近代数寄者のネットワーク

齋藤康彦著

茶の湯を愛した実業家たち

高橋義雄、根津嘉一郎、小林一三…。彼ら近代実業家と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出する。

▶A5判・308頁／定価4,200円 ISBN978-4-7842-1603-1

## 三木金物問屋史料

永島福太郎編

三木金物問屋「作清」黒田清右衛門家の近世史料を主体に、仲買問屋「道登」井上啓七家、三木市宝蔵文書・市立図書館所蔵文書から金物関係史料を収録、解説と研究5篇を付した。

▶A5判・700頁／定価10,500円 ISBN4-7842-0284-6

## 日本近世染織業発達史の研究

貫秀高著

近世において大規模産業として成長し、文化・生活の向上に大きな役割を果たした染織業。本書は、中世の状況についての概観から始まり、生糸の輸入状況や織物業の輸入依存からの自立化の発展過程、技術の伝播の具体像・発達などの従来とは異なった視点で詳しく分析。

▶A5判・780頁／定価12,600円 ISBN4-7842-0852-6

## 中近世農業史の再解釈 『清良記』の研究

伏見元嘉著

戦国末期伊予の軍記『清良記』全30巻を分析。その著者および成立年代を確定し、日本最古の農書とされる第7巻「親民鑑月集」の位置づけを明かす。近世農業の始まりとしての農書という定説をくつがえし、中世農業の最終段階をはじめて詳説したと位置づけ直す。

▶A5判・424頁／定価8,190円 ISBN978-4-7842-1562-1

## 黒正巖著作集 [全7巻]

黒正巖著作集編集委員会編

1920～40年代、社会経済史学の誕生に大きな役割を果たした黒正巖の業績を全7巻構成で明らかにする。

【構成】①百姓一揆の研究／②百姓一揆論／③岡山藩の研究／④社会経済史の研究／⑤経済地理学の研究／⑥日本経済史／⑦農史の研究、年譜・著作目録

▶A5判・総2,800頁／定価58,800円 ISBN4-7842-1122-5

## 東アジア経済史研究 第一集

大阪経済大学日本経済史研究所編 中国・韓国・日本・琉球の交流

日本における研究を発信するだけでなく、世界、アジアにおける研究情報を系統的に取り込み、データベース化し国際的な研究の発展と交流を目指して行われた第1回東アジア経済史研究会「近世・近代の東アジア経済史研究」(2007年大阪経済大学日本経済史研究所主催)。

▶A5判・344頁／定価4,200円 ISBN978-4-7842-1498-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。